

Sea to Summit! 利尻山東北稜登攀記

CL: 渡部 祐輔 M: 千葉 敦久、吉成 久和

3月17日 20:30 札幌～1:00 稚内着

3月18日 6:50 稚内港発～8:20 鴛泊港着～9:10 アフトロマナイ林道入口～10:30 渡渉点～12:30 1003m ピーク～15:00 三本槍 C1

3月19日 6:10 C1 発～7:10 門～8:30 ローソク岩基部～8:40 懸垂開始～9:15 懸垂終了～10:20 利尻山山頂～11:00 長官小屋～14:20 利尻富士温泉～15:00 鴛泊港～19:20 稚内港～2:00 札幌

18日

船上から純白の利尻山を望む。左から伸びる東北稜が良く見え、登高意欲が高まる。



下船後タクシーにてアフトロマナイ林道入口へ向かう。青空に本峰が望まれるが、風は相応に強そうだ。装備チェック・地図確認後、高低差のない林道を一時間ほど進み沢を渡り、東北稜取り付きに立つ。



726m、1003m を越えて三本槍を目指す。終始右からの強い風に煽られる。折りたたみダブルストックが断然有利！リッジ歩き、雪壁トラバースを繰り返して、15:00 三本槍。強風と飛雪でなかなか厳しい。



さっそく雪洞を掘るが雪が固く難儀する。

19日

早朝外に出ると天塩方面からの朝日が輝く！小用を足すと風に煽られ悲惨なことに！



6:10 雪洞を出て門・ローソク岩を目指す。そんなに厳しいリッジはない。



振り返ると海から辿ってきた稜線が眼下に広がり、東北稜を踏破した実感が湧いてきた。



門を登る。ロープは 15m ほど出るが、バイルセクションは短い。ローソク岩を回り込んで、オチウシナイ川に懸垂下降。下降地点は 70 度ほどの急な雪壁。気持ち悪い。



ここから 10 分ほど登りつめると、ついに利尻山山頂である。若手 2 人は最高齢の私に一番乗りを譲ってくれた。光栄である！ 10:20 Sea to Summit! 3 人とも利尻山初登頂である。海上に起立する孤高の頂に立てたことに感慨がこみ上げる。



切り立つ岩壁直下を 200m ほど右上すると難所は抜けた。岩陰にて小休止。



しばし 360 度の大展望を目に焼き付けて下山開始。山頂からの下りは海上に横たわる「花の浮島」礼文島が美しい。7 月にのんびり花探勝の旅をしようかな。

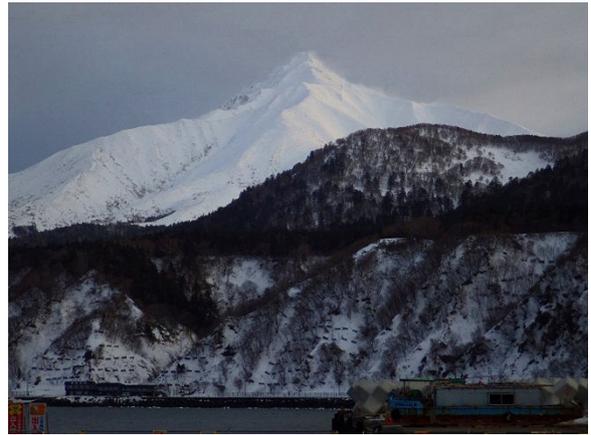


Co1230m 長官小屋にて大休止とする。全員安堵感が広がり、緊張感から開放された。8 割方は雪の中で辛うじて 2 階への扉があり、小屋内は真っ暗である。振り返ると雪煙が舞う利尻山山頂が輝いていた。



下りの夏道は想像以上に長く、平凡な樹林帯歩きはさすがに疲れた。14:20 立派な利尻富士温泉に着くが、着替えがないので我慢して歩いて 15:00 フェリーターミナル着。

Summt to Sea! 下りは長かった! ターミナルや周辺にはレストラン・売店もなく、自販機コーラをがぶ飲みしながら、濡れものを乾かした。17:40 発フェリーに乗船して、稚内にてラーメンを食べ、ゆったりと温泉入浴。深夜 2 時過ぎ札幌着。往復とも千葉君、渡部君の運転に甘えさせていただいた。お疲れ様でした! 来年は仙法志稜かなと考えた。



訓練は層雲峡、カミホロ北西稜～化け物岩、八剣山、定山溪天狗岳東尾根で行ったが、吹雪の北西稜が一番きつかった。今回の計画は当初 GW を予定していたが、利尻の少雪予想と登るなら純白の利尻を登ろうとの意見が一致して、春分の日連休にアタックとなった。結果的には天候にも恵まれて、1 泊 2 日で抜けることができた。

(余談 1)

千葉君使用のノースフェイス・コブラ 60 は登攀用に工夫されて製作されていて使いやすそうだった。早速購入検討中です。

(余談 2)

若者はうらやましい! テントに入ったら出発まで用を足さない! しょん〇〇ボトルも使わない! 頻尿気味のジジィはつらかった。(涙)

吉成 記